

第4回：

開催日時： 令和8年1月21日（水） 午後1時32分～午後3時24分

出席委員： 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、中垣内、関山各委員、室谷議長

1. 専門グループ別調査報告

各グループより、個別調査の進捗と現場の課題が報告された。

- **産業・雇用・健康（第4班）**： 坂井森林組合への若手定着事例を挙げ、行政が直接動く以上に、若手を雇用する民間企業をサポートする視点の重要性が示された。
- **生活基盤・住宅（第3班）**： 市街地以外での圧倒的なアパート不足やデマンドタクシーの利便性、自治会役員の担い手不足などの課題を指摘。実態把握のため区長アンケートの実施を提案した。
- **教育・子育て（第1班）**： 長野県飯田市の先進事例を参考に、幼少期から地元企業を巻き込んだ「キャリア教育」を推進し、郷土愛を育む必要性が強調された。

2. 行政ヒアリング（移住定住・婚活事業）

市民協働課より事業報告を受けた。空き家バンクの活用は堅調だが、お仕事体験事業では期間設定が応募数に影響する実態が共有された。また、未婚者の約7割が活動していない現状に対し、結婚への気運醸成や男性のスキルアップ支援の必要性が議論された。

3. 今後の活動方針

3月までにテーマ別の行政ヒアリングを完了させ、春の視察を経て議論を集約する方針を確認した。また、提言に市民の声を反映させるワークショップの開催や、大学との共同研究の模索についても合意された。

人口減少対策特別委員会（要点筆記）

令和8年1月21日（水）

午後1時32分から午後3時24分

議員 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、中垣内、関山、室谷議長

欠席 なし

遅刻 なし

傍聴 なし

事務局 東局長、吉田補佐、中西主事

○ 協議事項

（1）移住定住・婚活について

（2）その他

○ 協議事項

（1）移住定住・婚活について

三上委員長 グループ報告を各自お願いする。

三上委員長 グループ4の説明をする。（資料あり）

我々としては、出生率の増加も重要だということで、今回婚活事業のヒアリングをさせていただく。やはり人を減らさない、なるべく出ていかないような魅力的なまちにするのもいいんじゃないかということで、いくつか生活に密着したような取り組みということで、山形県だったらパナソニックと提携して自動食洗機の貸し出しとかというようなプランがあって結構面白いなという話をしたり、芦原の魅力という意味では農業をどのように魅力化するのかとか、移住定住もあるが、民間が人を確保する。それを支援するのがいいんじゃないのかというような目線は持つべきだろうということで、事例として坂井森林組合の方に若手がかなり今来ているということ、卯目委員の方から情報提供いただいたんで、それがなぜ起こって、どういう補助ができるんだろうなということ、ちょっと具体的に深掘りしたいなというような話とか、旅館も、やはり若手を雇用するので、その部分を手助けしてあげるというか。それによって定着するみたいなこと、要は民間をサポートしてあげることの方が結構重要なんじゃないかなという目線を我々としては持った。だから住宅とかも含めてその部分を少し今深掘りしたいなということ、2人で話をした。他は健康増進の話を少し深掘りしようとか、他市町事例を見たいということをした。

卯目委員

三上さんと話をし、今あわら市ではないけど、前は人口減少問題で婚活とかに力を入れてきた。その他に森林組合があるけど、その組合に静岡の方から若手の人が4人入ってきて今、定住して、こっちの人と結婚して家庭を持っていて、そのうちの2人はもう家を建ててる。まとまって来てるんですけど、なぜこっちへ来たのかとか。どういう魅力があってそういう仕事に就いたのかとか。その人たちは浜松からだけど、なぜまとまってこっちへ来たのかっていうのにすごく興味があって、今日4時半から向こう行って話を聞かせてもらう。仕事の都合もあるのでいろんなお話を聞かせていただいて、もし何か参考になるようなことがあれば、芦原の方でも何かできないかなって思っている。また報告できると思う。

南委員

森林組合はどこにあるのか。

北島委員

坂井森林組合は轟産業の手前。御簾尾。

中垣内委員

私達グループ3も関山さんと話をし、こちらもLINE Worksに1月20日、関山さんの方から挙げているPDF資料の方を基に、報告をさせていただく。まず課題点として、地域の誇りとイメージの改善が必要ではないか、そこが劣っているのではないか。自分のまちへの誇り愛着が、移住定住の基盤になってくるという認識、子育て支援など制度面は他地域と遜色ないが、あわら市は劣っているというイメージがどうしても残るのではないか。都市の模倣ではなく、温泉・自然など「芦原らしさ」の訴求が重要ということを話した。便利さばかりを求めるとかではなく、芦原らしさ。例えば、先ほど話あったように農業やあわら温泉は少し不便もあるが、そこを売りにしていてもいいのではないか。自治会や地域の繋がり希薄化による閉塞感の拡大が課題。結論としては、地域の魅力と誇りを高める広報と訴求の強化が必要ではないか。広報があまりうまくいっていないのではないかとこの点だ。次が交通買い物、通院通学などの生活基盤の課題について店舗不足や交通の不便により買い物や通院通学が困難な地区が存在する。特に、山間地域など中心部よりも、ちょっと田舎の方は本当に大変な場所が多々あるということも出ている。デマンドタクシーは登録予約が必要で、十分に使いこなせない。高校生の通学など常用者って書いてあるんですけども使っている方もいる。ただ、当日の乗車の容易さが低い。スクールバスは小学校中学校です、高校はありませんが、祖父母がいない家庭、お勤めしているお父さんお母さんでは、なかなか学校に乗せていくっていうことができない。不便を感じているということもたくさん聞いている。高齢世帯のみの地区では雪かきなどの生活維持が困難。結論として、地域差を踏まえた交通買い物支援の実態把握と改善が必要。次が住宅子育て環境。アパート家賃補助など。アパート不足により、地元へ戻りにくい課題、特に街中は需要に供給が追いつかないといったことがある。市営住宅以外の選択肢が限られる地域がある。中心部には市営住宅以外のアパートがあるが、中心以外はもう全くない状況である。なので、戻ってきたくても住む場所がないという問題点がある。次、既存の子育て給付、1人につき月1万5000円補助では不十分ではない

か。ただ第4子以降これは月10万円以上かかってきてる。1万5000円の補助ではなかなか子供を産んでいこうっていう気にならない。その他子育てにすごいお金がかかるっていう問題点がある。私達子育て世代の意見が上がっている。福育さん。先ほどもでてきましたが、こちらは、子育てする上で、人手が欲しいときなどに、福育さんで一時預かりの支援などが2時間1000円ほどであるんですけども、こちらの評価は高いですが、こちらでも費用の負担が残ってくるという点がある。なので、子育てについての不便さがあるのではないかということである。

関山委員

福育さんについてだが、ベビーシッターが来てくれるというものだが、普通の民間のところでしたら2時間で、交通費込みで5000円ぐらいになる。それが1000円プラス交通費ぐらいで使えますよっていうのは結構いいのだが、やはり費用負担はゼロにはならないってところがある。

三上委員長
中垣内委員

県がやっていて、自己負担が多少あるよねっていうことを書いてる。

結論としまして住宅の供給、家賃補助の拡充、子育て支援の大幅な大胆な強化策の可否の検討が必要ではないか、ということである。自治会、行政区の運営危機と統廃合こちらは、私達は交通の不便、生活の不便を調べるグループということで、区長からの区長のなり手が不足しているとか、班の運営がままならない、婦人会とか子供会などの会の存続も、もう今はできていない地区もたくさん出てきている。そういったところで、同じ方ばかりに地区の役が回り続けるという不公平感も出てきているので、自治会の存続が難しくなっているのではないかと、という点である。行政区や班の統廃合の促進、行政区をもっと小さくすることも考えなければいけないのではないかと、ということも話し合った。あと区長、副区長への手当をもう少し上げてあげないといけないのではないかと、という意見も出ている。災害時の情報伝達が高齢者に届きにくい課題、防災無線が届きにくいという声がたくさん出ており、そちらも不便さに繋がってきている。平時からの近隣付き合いや助け合いの質の向上が重要ではないか。結論として、地区行政区の統廃合と役職の処遇の改善、平時からのコミュニティ強化が必要ではないかという意見が出ている。最後に高齢者の就労、定年制度に関する提案で65歳以上を一律に高齢者扱いする今の制度の見直しが必要である。前の委員会でもあったが、今、高齢者の方々もとても若くなってきているので、そちらを担い手の方にシフトチェンジしていくことが必要ではないかということも話し合っている。再雇用時の処遇の低下を避けて、定年引き上げの検討が必要。議員職への定年導入の案も必要ではないか、そういったことを市民の方に訴えていくということも必要ではないかという結論になっている。今後、私達のグループで、区長宛にヒアリング、アンケートなどを行っていきたいと考えている。こちらをこの委員会の方で皆様に承認いただいて、アンケートの方に進んでいきたいと話し合った。

三上委員長

しっかりいろんなことを議論していただいたように思いますので、一旦先に次の報告いきますが、行政ヒアリングの後でまた少し話せたらいいかなと思っている。

南委員

基本的に先ほど言われた民間をサポートするというか、民間を教育に取り入れるというのが基本的な私達の考えである。基本的に我々教育・子育てに関しては、民間、いわゆる企業を巻き込んでやるっていうのは根底にある。今は調べる段階で、ちょっとメモ程度にしか書いてないんですけども、実際みんなで総括的に全部やるのか、それとも集中するのかっていう方向がわからなかったんで、一応教育だったら、北浦さんと1月5日に話したので、教育だったらやりたいということ話をした。ワードで書いたものと、もう一つが教育をやってきて、一番最先端で進んでるなという、長野県の飯田市のもので、文科省の関連のところからもらってきた。教育・子育てに関してはやはり絶対これはやっていかなきゃいけない。これがおろそかになると、もうあわら市っていうのは廃れていくんだろうなとも思っている。そのメンテーマがやっぱ幼少期からのキャリア教育っていうことで、キャリア教育の中に民間企業を常に巻き込んでいく。大まかに言いますと今までの国社数理英の教育だけじゃなくて、あわら市を考えるような戦略的な教育をやっていかなければいけないということが、ここに書かれている趣旨である。確かに小中学校、全部回ってきましたけれどもふるさと教育って言って自然教育とか地域の年配の方たちが地域の伝統として残してほしいような教育をしているんですけども、企業と関わるようなキャリア教育っていうのは、実際あんまり行われていない。この間新聞にどこかの企業のことが載ってたんですが、現場を見て、今、何が課題としてあるのかという産業の面の課題ね。それとあわら市がどのような課題を抱えているのかも含めて、小さいときから、そういうことを考えさせていくっていうことをしていけないとUターンとかに繋がっていかないんじゃないかということ話をしていた。それともう一つ、移住定住の方の会議に出させてもらったら、なんであわら市に来たかっていう理由にあるお母さんが言われてたのは、別にどこでも良かったんだと。ただ、芦原に若いときにちょっと旅行して、ここの芦原の印象がものすごく良かったというか印象に残っていたので芦原に行ってみようということで、ここに住むことになったっていうのが元々のきっかけだと。それともう一つ言われたのは、教育のことは調べたと。子育て、いわゆる子供クラブがどのようになっているのか、こども園がどうなっているのかとか教育はどのように行われているのかっていうのはやっぱり調べたというようなことを言ったので、もしこの教育の部門で少しきちっとやっていこうとなったら、キャリア教育の充実、要するに、あわら市全体が教育を作っていくというような考え方でやっていきたいなというふうに考えている。

三上委員長

ぜひこの例で示されたキャリア教育、面白そうなんで、ちょっと深掘りできたらいいなと思っている。このような形で非常にそれぞれやっていただいてありがたいなというふうに思ってますので、また随時こういうふうに共有していきますので、ぜひそれぞれ積極的に動いていただきたいと思う。ただ、さっき関山議員中垣内議員のところのグループからあったように例えばアンケートとりますとかそのような話は一旦

全体に共有だけしていただいて、そこでOKということで進めていただきたい。案は
どんどん出していい。報告と共有と承認だけよろしく願います。

南委員 そしたら僕見させて欲しいのは、芦原子子どもクラブが民間になったでしょ。どう変
わったのかっていうのを見に行きたい。ということと、加賀市の子どもクラブは民間
なんですけども、充実してるってことを聞いたので、ここは行ってみたいなど。結構
移住定住のときにも、小学校の放課後をどう過ごしているのかっていうのはすごい関
心がある事項だと思うので、ここはいいなっていうのを、2、3人から聞いたので、
行かせてほしい。

三上委員長 まさにこういう話をしてると見に行きたくなるだろうなと思っていまして、我々も
実際、移住定住とか出生率の話だとちょっと近いけど、坂井市もなんでいい感じなの
かみたいなのを探りに行きたい。

三上委員長 市民協働課から説明願う。14:03

藤田課長 令和7年度移住定住促進に向けた取組について説明（資料）

令和7年度縁結び推進事業について説明。（資料）

三上委員長 まだ時間がありますので、今の内容でも結構ですし、それ以外の移住定住や婚活に
関係することでも結構ですので何かある方は発言をいただきたい。

北島委員 昨年、空家を結構貸し出したり売却したりしてると思うが、その件数も伝えてあげ
てほしい。建物が足りないという意見もあるためである。

藤田課長 令和6年度の空き家、あわら市では空き家情報バンクということをやっているんで
すけれども空き家をネット上に登録して、その売買のお手伝いをするっていうよう
なものである。その新規の登録の件数が53件、去年新たに増えた件数ですね。成
約件数が31件というふうになっている。市内では結構動きがいいと聞いている。で
も空き家は増える一方なのでまだまだである。

三上委員長 活用は芦原は結構進んでいるという認識ですよ。

北島委員 案内するデータの中身もカラー写真とか入っているので、坂井市と比べると全然違
う。こちらの方が内容が手取りやすい。

南委員 空家の総数は今現在どれだけあるのかを教えて欲しい。

藤田課長 令和6年度末の空き家の件数ですけれども、693件となっている。今年度国勢調査
が実施されたわけですが、そのデータも活用させていただきながら空き家を再度精査
するようなことを今職員の方でやっている状況で、今後かなり増えるかなと考えてい
る。

三上委員長 増えるっていうのは、空き家自体がもっとあったみたいな認識ということか。

藤田課長 はい。それを踏まえて今年度は管理不全空き家という特定空き家になる前の空き家
はあわら市内でどういう状況かっていうことを一旦整理するために委託をして、その
状況を今精査しているところである。

北島委員 空き家バンク登録数は？

藤田課長 令和6年度末の登録件数ですね。売買とか、いろいろ終わった後の3月末時点の件数は51件というふうになっている。登録して成約することで今残っている数だ。

野沢委員 あわら市は、この田舎暮らし移住フェアとかで、どういう写真を使ったり、どういうイメージでやってるのか。何を売りにしてるのか。私も地域回っていて、その地域は毎月飲み会があるとか、祭りをみんなでやろうっていう、地域力が高いなっていうところとかがあったりする。ひっそりと暮らしたい人は、ここの地域がいいだろうとか。そういうニーズのマッチングみたいな、移住マッチングみたいな視点とかで考えているのか。

藤田課長 移住フェアでブースの飾り付けが、それぞれの自治体の色が出るころかなっていう思うんですけども説明した通り、県や嶺北、福井嶺北中枢都市圏の方でやる事業と一緒に参加するような形で行っているんで、福井県としては、ピンク色で例えばブースっていうか統一したところがまず基本的にある。うしろに、例えばバックにどういったポスターを貼るかとか、そういったところでちょっと色を出していくような形なんですけどもあわら市としては、観光ポスターですね。ちょっと大きめのを何種類かあるのをご存知でしょうか。女将さんたちがお辞儀をしているやつだったり金津祭りの山車とか、あとメロンを食べてる地域の子供たちの写真だとかそういうものがあると思うんですけども、その中からその季節に合ったものを貼り出したりしている。プラスせっかく移住サイトを作りましたので、その移住サイトをお示しできるようにタブレットを持っていったりだとかしている。あと芦原の動画を流したりして飾り付けを行っている。あわら市の方に相談に来る方、あわらをご存知ない方がきたりするんですけども、まずはあわら市ってこういうところだよっていうことを言う。海も川も湖もありますし、温泉もありますよ。山もあります、農業が盛んです、とか観光も新幹線が通りましたよとかそういった一通りのことを説明した上で、こういったところに移住をご希望ですかっていうことを聞いて、例えばこういうエリアがありますよとかそういった説明になる。あとは移住を考えている方はもちろん先ほど言った通り、住むところも気にしてらっしゃいますし、働き先はあるのかは聞かれるので、ハローワークにちょっと情報をいただいたりとか、あと旅館がありますとか、農業が盛んなので、農業もいいですよとかそういったことで、ご紹介の方はさせていただいてる状況である。ですが委員おっしゃる通り地域で、例えば団結力が強い地域があつてここいいですよとか、そこまでの細かい情報の提供までは今はできてない状況だと思う。

北島委員 ポスターは5年前のものだね。

山口補佐 今年度なんですけれども、観光芦原っていう、30種類ぐらいあるポスターを貼らせてもらうときもあるんですけども、今回はどちらかというに移住サイトを立ち上げたっていうことがありまして、移住サイトのポスターをA2版にして大きく後ろに貼らせてもらってQRコードで移住サイトの情報を読み取ってもらうっていう形になる

べくしている。あと、移住希望者の方は、お仕事に興味ある方が多いので、ブリッジの方を一応紹介させてもらって、市内の企業の案内も同時にさせてもらっている。また今年度新たに農業体験とか旅館体験っていうものをしているので、その農業体験とか旅行お仕事体験の方のチラシも同時にご紹介させてもらって、芦原温泉はまず温泉地っていうこともあるので、入浴剤を一緒にお渡しすることで、温泉地の芦原にいらしてくださいっていう呼びかけも行っている。

北島委員
藤田課長

協力している写真家がいる。

トモサキさんについては、ブリッジを作成する際に表紙の方を撮っていただいたりしている。トモサキさんの写真は芦原のいい風景をいい具合に切り取っていますので、それを活用してこちらの方でポスターを作って活用している。

卯目委員

このお仕事体験のところ、例えば旅館ですと仕事っていうのは決まってるでしょ。例えば忙しいとき暇なときあったとしても一日中のお仕事の内容というのは大体決まっていますよね。この農業ですけど、農業今これ見ると2泊3日かな。2泊3日で農業の何がわかるんかなっていう気が私はする。農業で、もしそこで移住してもらおうってなると、農業ってやっぱり1年間あるわけでしょ。お米やメロンとか、そういう果物だとかその都度いいことばかりではなくて、逆にもっと大変なことが結構農業にはあるんじゃないかと思うので、それをどういうふうに理解してもらって、来ていただく、移住に結びつけるかっていうのを理解してもらわないといけない。観光で2泊3日で来て収穫したとか、美味しいもの食べた、とかどうなんかなと思う。

藤田課長

農業体験なんですけれども、がつつりもう朝から夕方まで作業をしてもらおうような形でして、ちょっと観光できてっていうような感じではない。長靴を持って作業服を持ってきていただいてっていうような形である。実際に農業をしている方と話をすることで、農業のもちろん大変さもわかりますし素晴らしさもわかりますし、あと地域の人たちの繋がりもその人たちに教えてもらったりだとかして確かに2泊3日ではあるんですけれども、まずは体験していただくといえますか、農業にちょっと興味があって、がつつりまではいかないんだけど、ちょっと話を聞いてみたい。雰囲気、何か肌で感じたいといえますか、そういう県外の方とかに体験していただいているかなっていうふうに思っている。

山口補佐

農業体験なんですけれども2泊3日でさせてもらっていて、移住希望者に対してスマウトっていう移住希望者向けのオンラインサービスを使って広報かけてるんですけども、その移住希望者がこれの日程っていうのが、やはり2泊3日か3泊4日の方が多い。1週間とか、長期にしてしまうと応募が少なくなる。全国的に見ても、大体2泊3日か3泊4日が農業体験としては一番多いプランとなっている。温泉のお仕事体験も今2週間で打ち出したんですけども、そちらの方も今長期で1ヶ月でかけてるんですけども、長期にすると移住希望者はやっぱり応募が全くなくてです

ね。そこら辺の期間の選別は2泊3日をちょっと拡張しても3泊4日までかなと考えている。

北浦委員

農業体験に来られる方は、農業に従事したいなっていうつもりで来られているのか。あるいは芦原ってのはどういうとこかなっていう感じで来られてるのか、農業をこれから自分もそれを業としてやっていきたいとか、その辺は来られてる方はどういう気持ちで来てるのか。

藤田課長

今、体験していただいたこの6名の方っていうのはやっぱり農業に興味のある方が多かったですね。芦原に興味があってっていう方ではなくて、農業重視の方が多かったように思う。一方で、旅館の方は、観光的なワーケーション的な感じの方が多くて、旅館の仲居さん体験してみたかった、というような印象を受けている。

関山委員

告知はどうやってしているのか。

藤田課長

先ほどですね山口補佐の方からも言いましたけれども、スマウトという移住希望者がみているサイトがあるんですけども、そこで告知の方をさせていただいている。今年度から事業を開始したということもあって、結構告知を上げると、あわら市の企画について興味あるっていうボタンを押してくれる方が多い。今までそのスマウトの集計結果っていうか、そういうのにあわら市は全く触れてこなかったんですけども、今年は21位ぐらいにランクインすることができた。

関山委員

今、スマウトって何人ぐらい利用しているのか。

藤田課長

7万人近くである。

卯目委員

芦原って農業するには、適してると思うんですよね。丘陵地もあるし空いてるところもいっぱいあるし。そういうことから言ってどっちかっていうと、農業をこれからやっていきたい、それで食べていく人、仕事として農業をやっていくっていう人にとったら、魅力はあるんじゃないかなと思う。それから、今、梨とか柿とかいろんなもので、後継者不足っていうのもありますし、そういうのをもう少し来てくださる方たちに少しアピールするために何かもう少し工夫があるといいかなと思う。例えば1年の間に2泊3日でもいいんですけど、それを例えば3回に分けるとかね、その時期時期の体験をしてもらおうとか。そういうやり方があるとまた別の興味を持っていただけるんじゃないかなと思う。ただ農業って言ってもなかなか難しい。農業は普通に働いてるよりは、いいこともあるけど大変なことも多いと思う。それをわかった上で、来ていただければ一番いいことですし。農業はキーポイントかなと私は思っている。

藤田課長

先ほど説明した通りこのプラン今年度からちょっと始めたプランで、三つの農業法人の方に、ご協力いただいているが、受け入れていただくっていうのもなかなか大変なことではあるので、法人側とも話をしながら、こちらとしては移住に繋がりたいっていう思いもありますので、いろいろ話をしながら続けていきたいと思う。

- 三上委員長 一応なんですけど、この場合は審議じゃないんで、そういうことはちょっと控えてほしい。もっとざっくばらんに喋るべき場なので、審議は常任委員会でやるので。そうじゃなくてここは議論をする場にしたいので。
- 中垣内委員 先ほどスマウトの話されたと思うんですが、それ以外にもされてたりとか、今申し込みの件数は、スマウトからだけなのか教えてほしい。
- 山口補佐 スマウトが一番メインにはなってるんですけども、一応あわら市のホームページとか SNS とかそういうものと、県の方も支援していただいております、県の方の SNS でこういうふうなイベント企画とかを全て出してもらっている。県の方に情報を流すと県の方から東京事務所の方に情報が行くような形になっておりまして、東京事務所の方にも芦原温泉の旅館体験に興味あるっていう方がこられてるっていうのはこちらの方に声として聞いている。あと、ふるさと回帰支援センターが東京とか大阪とか京都とかにもあるんですけどもそこら辺にチラシを送ってる。
- 関山議員 おてつたびっを使ったらいいかんと思う。
- 藤田課長 旅館の体験プランを構築する中で、やっぱりおてつたびのことが出てきまして。農業も角屋さんとかもおてつたび使ってるよとかっていうふうに言ってらっしゃいますので。今後もあわら市の方もその辺勉強しながら。また県の方でもおてつたびと何か連携をするような動きも今ちょっとあるみたいなので全然まだ公式ではなく、そういう話もちょっと聞いておりますが、実現するかどうかかわからないが、またそういうところを見据えながらやっていきたいと思う。
- 卯目委員 移住定住フェアの一番下に、例えば7月19日の一番右に16組17人と書いてあるのはどういうことか。
- 藤田課長 あわら市のブースで相談を受けた数。
- 北島委員 田舎で伸ばしてるところってあるんかな。というのは、移住定住伸びてるところっていうのは、ほどよい田舎で、町もある。交通の利便が高くて、東京にも大阪にも行けると。静岡とか愛知県もそこそこ人気あったりする。そんなことを考えると、うちらみたい交通利便性があんまりよくないようなところで、都会でもない。それでも伸びてるっていうところってあるんかな。
- 藤田課長 同じ規模でっていうところは調べてないんですけども、極端にですね離島とか、そういったところはある程度行きたいっていう方がいらっしゃったりとかするっていうのはわかるんですが、でも数が多いかっていうと、そこまで多くないとは思う。やっぱりダントツ的に多いのは静岡だとかになる。
- 三上委員長 あわら市は移住者自体は割と多いのでは。
- 藤田課長 昨年で97名となっております、悪くはないんだとは思いますが、やっぱりもうちょっと増やしたいなっていう気持ちはある。
- 三上委員長 確か社会増減はプラスになっていたと思うが。

- 藤田課長 実には毎年外国人の人口が100人ずつぐらいここ数年は伸びておりまして、そういうことも要因にあるのではないかなって思う。
- 南委員 あなたの希望をかなえるあわらの暮らしを応援します！のところだが、結婚新生活支援事業補助金はなんで39歳以下なのか、とか29歳が入ってないといけないとか、というのがちょっとわからなかったんで。最近晩婚になってるので、これ取っ払うってことはできないのかなと思ったんですが。
- 藤田課長 この事業自体が元々県の事業であるってということもあるんですが、先ほど資料でも申し上げた通り、県としては早婚の結婚を応援したいっていう思いがある。その早婚の定義が39歳以下かなと思っている。
- 南委員 この奨学金返還支援事業は、県外の大学などとなっているが、県内でもよいのか。
- 山口補佐 対象者なんですけど、県外の大学を卒業予定している方をメインにしていますけれども、県外の大学を卒業した後に戻ってきた人も対象となる。県外の大学を出た人となっている。新卒でなくても既卒者でも大丈夫である。
- 南委員 県内も対象にしたらここに残るかなと思ったんだがお金がかかりますよね。
- 藤田課長 議論の一つには上っております、ずっと芦原にいてくれる人に対して、じゃあ何にもないんじゃないかっていうような、そういう議論はあるんですけども、やっぱり予算ということもあるし、呼び込みたいってということもあるので、そこは今現在はこういう状況で始めている状況である。
- 南委員 あわらに残っているなら補助しても良いと思った。
- 関山委員 資料の20代、30代の未婚者の恋人探しの活動状況の有無ってとこなんですけど、7割が活動していないってなってるんですが、僕も実感ありまして、個人的に婚活みたいなことをやったりするんですが、やっぱり来たくないという人も一定数いる。相手はいないけど土俵にすら立ちたくないみたいな人もいて、これが物語ってるなと思うんですけど、3割を相手に婚活事業をするよりも、全体をターゲットに、何か結婚生活のイメージアップとかイメージがつくようなことをしていく方が、婚活事業するよりも効果あるのではと思ったりするんで、ちょっと検討いただけるといい。
- 藤田課長 委員おっしゃる通りで活動している方ってのは限られるっていうのもあって、イベントをやっても同じ人が来るっていうことがやはり多い。特に男性。そう考えると残りの7割の方に、やるぞって思うように思ってもらえるような、そういう仕掛けが今後大事だと思う。芦原が若い女性が減るよりも婚姻件数の減少率が多いっていうのは、もしかしたらそういうところにあるのかなって思うように思っていて、気運醸成でもないですけども結婚っていいよねって思うようなそういうような市全体の雰囲気作りといいますかそういうことも重要なのかなって思うように私個人としては思っているところだ。
- 相模補佐 もちろん結婚自体がいいねって思う気運醸成もありますし、交際相手が欲しいんだけど活動していないって、主に男性目線と言うと、自分に自信がない男性もまず多い

のかなと。恋人がいないまま30代になってしまったとか、1回目も付き合ったことがないなかで、婚活に行くことがそもそもちょっと恥ずかしいというか、そういった方もいらっしゃるのかなと思ひまして一応市としましては、来年度、男性のスキルアップセミナーっていうのを予定していて、そういったところでまず自信をつけてもらって、少しポジティブにアップさせていけたらなと思う。

藤田課長

昔、おせっかいさんっていう方がいたと思うが、この時代、行政がおせっかいさんにならなければならない時代だ、という方がいた。

卯目委員

この市でやるときは、あわら市に住んでる人とか、坂井市から通ってる人とかって、何回かやってるうちに、顔を合わせてしまう。そうするとやっぱり気まずいっていうのかな。それと来る人はもう必ず何回も来る。男性ね。女性はちょっと少ないですけど。そうすると男性はその人っていうのが、わかってしまう。マッチングまでいかない。どうしても女性の方が同じレベルだと精神年齢っていうのかな、そういうのが高い。現実的っていうかな。

相模補佐

男性にも結構現実とかを知ってもらおうっていう、つらい一面も見せていこうかなと思っている。

北浦副委員長

養子縁組の成婚率が高かったと思うけど、あれは今の話と関連して女の人が積極的だからそうなるのか。

相模補佐

今は長男だけが家督を継ぐっていう世の中ではないので、女の方もやっぱり自分のところに来て欲しいっていう希望は結構ある中で、この婿養子のすすめにそもそも興味があって来てくれた人がいるっていうのは事実かなと思っている。男性の中での意識でも長男だから必ず継がないといけないという意識が少し薄れてきている。(婿に)入ってもいいよって本当に思ってくれる方もいるのが実際ここで出てきてるのかなと思う。

卯目委員

ちなみに再婚というのもあった。多様化、普通の結婚というところで扱わないものを私らは扱っていかうとしている。

三上委員長

非常に参考になったので、ぜひこちらとしてもいろいろと今の生の話を聞いて考えるところありますので、ぜひ今後も一緒にちょっと考えていけたらいいなと思う。

14:55 市民協働課説明終了

三上委員長

初回のヒアリングでしたけれどもやはり聞いてみると、結構知らないことも多いし、考えてることもあるって感じがする。(行政に)聞くべきだと思った。くり返そうかなと思う。残りの時間でそのヒアリングの前にあった質問、もしくはヒアリングの中のことでもいいですけどもその辺でちょっと議論したいことがあれば聞く。あとは今後の進め方は決めてしまおうかなと思っている。北島議員から提出していただいた資料も気にはなってるんで、補助率はとても重要で、ただ上限と補助率で、結局その上限は大抵こえないみたいな話がある。

- 北島委員 結論から言うと、他市町と比べて決してあわら市は悪い状況ではない。永平寺は、福井市が近いので企業誘致を取り組める場所にある。永平寺がいい補助を出しているのか聞いたことがある。条件が悪くある会社が坂井市に進出したようなことも言っていた。あわら市は頑張ってるんやで、どうターゲットを見つけるか、発信して、見てもらえるかっていうことは重要である。
- 三上委員長 どれもそんな感じがする。
- 北島委員 プロモーションビデオも観光のポスターなんかも新しくして今の時代に合ったような感じでリニューアルすべき。そこからいろんな媒体に繋がるようにしていかないと。
- 三上委員長 知れば知るほどあわら市は全然他の市町に、負けていない。もちろん坂井市も素晴らしいけど、あわら市も別に負けてないと思うけれどもなんか雰囲気であわら市どうなのみたいな気がする。そもそもイメージみたいなものを塗り替えればいいのかなっていう気もする。
- 卯目委員 佐世保かな。若い女の子になんで残らないのか聞いたら、働くところがないと。佐世保っていうのは造船業とかそういうのが多くて女の人が行って働ける場っていうのが極端に少ないらしい。だからもし働く場があればいますっていう、そういうのを見たことがある。でもやっぱり若い人が都会へ出ていくのは仕方ないと思う。1回は外へ行ってその華やかさとかね、楽しさを味わってほしいと思うけど、帰ってくるとき、こっちで暮らしていこうと思うときの、何をベースにするかっていうそれが足りないのかも知れない。
- 野沢委員 働く場に関しても少し深掘りする必要があるなと思っていて、働く場所がないと言っても、彼女たちはどういう分野を求めているのか、そしてその場所、その求めている分野があわら市にないのか、欲しているものと提供できるものをちゃんと見ていった方がいい。一律に働く場がないというのではなくて、もう少し深掘りしたところがないかなと思う。さっきの中垣内さんと関山くんのグループのときにも思ったんですけど子育ての環境が充実してないっていうのは、市総合振興計画の市民意識でもすごく低かった。その数値の部分をきちんと見て、じゃあ何でその充実していると考える市民の割合が35.8%なのか。その理由は何なのかっていうのを深掘りする。何が足りないと思ってるのかみたいなのをちゃんとヒアリングして、その部分を補充するみたいな対策が主としてできればいいんじゃないかなと思った。
- 南委員 進め方に関して、今日は卯目さんと三上さんがやられたことでヒアリングして、時間をとった。次回は次のところに行くと思うんですけども。今回やったこのことに関して、この中で、これは大事だよねとか。これは取り上げて今度は全体に乗せたいねとか、そういうのを決めていかないと、このままだと聞いただけで終わってしまう。もっと深く、ここで人口減少やってこうっていうのを一つずつぐらい決めた方がいい

んじゃないかなと思う。三上さんがこの後どういうふうにこれを持ってこうとしているのかまず聞かせて欲しい。

三上委員長 今1個ずつ進んでると思ってまして、まず我々が自力で調べました。続きまして行政がやっていることを今聞いている。今、大体その辺だと思ってるんですけど、それが一段落した段階で今南議員がおっしゃるようなちょっとまとめが必要かなというふうには思っている。つまり、それぞれの分野が今出てきていて、それぞれどこがポイントなのかみたいなのも少しずつ見えてきてるので、今5グループあり、1個ずつやってくると5回分必要になってくるんですけど、例えば月1だとちょっとあれだなと思って2週間にいっぺんぐらいやれるといいなと思う。そうすると大体3月で終わる。この話その段階で、ある程度行政のこともわかったし、自分たちの課題もわかるという状態になるので、その段階で少し今全部ふわっとしているものを、もう少しギュッとするようなことを、取り組もうと思っている。それに組みながら、他市町の視察。ちなみに人口減少対策特別委員会で視察があるんですけど、春でもいいかなって今思ってる。要は3月までにここの行政の中の話はします、その上で我々としてどうするのか、ということそこから考えていく時間を取ろうと思っていて、その中で他市町事例も見てこようというようなことをやっていく。本格的に人口減少対策としては一体何をすべきなのか。どこに重点を置くのかっていうのが見えてくるので、それが見えた上で具体的についていうような話になっていくのかなと思っている。

南委員 ということは3月までに一旦、ふわっとしてるけども全体を聞こうと。2ヶ月前だったら忘れてしまうかも知れないので、しっかり自分で把握しておいて、もう1回総括の中でちょっと精鋭化していくということですね。

三上委員長 そうです。

関山委員 区長アンケートの件はどうなのか。対面ヒアリングがいいと思っているが。

三上委員長 内容次第である。。

関山議員 たたき台は作るが、内容はここで決めたいと思っていた。

三上委員長 それであれば、例えば、それをそもそもしてはいけないう方がいれば、今意見出させていただきますし、いなければ次回例えばたたき台を持ってきていただいで議論ということをしよと思う。

いつやるかは別に決めてないんですけども、今はとりあえず次回と言ったんで、次回、その行政ヒアリングもそのグループにさせていただいてもいいのかなとは思っている。

グループ3は住宅や自治会等幅広い。

北浦副委員長 どういうこと聞かこっちで絞った方がいいのではないか。

長

三上委員長 想定をしてたのは、そのグループで行政に対してここを聞きたいなとっていうところを自分たちで絞ってヒアリングをしたいと思ってた。そういう意味で全体でどう

こうというよりは、グループとしてここに興味があるんでこの話を聞きたいという形でいいかなと思っている。

行政へのヒアリングはそれぞれがやらしてもらってもいいけど、今日みたいなヒアリングを1回やろうかという話なので。

何を気にしてるかっていうと、行政側の作業量っていうのをなるべく考慮したいと思っている。だからあまりにもあちらに負担がかかるような話になるのであれば、少し考えたいなとは思っている。その部分動くときに少し相談をさせていただこうかなと思う。アンケートみたいな話になってくると、あちら側との折衝が必要になってくる話なんで、あんまり軽やかにやるって言って動いてもらおうと、あちらに負担がかかる可能性があるんで、そこは多少慎重にならせていただきたい。一旦僕の方で実の動きに関しては、一緒に相談させていただいて、その上で支障にならない範囲で動いていただくことにしようかな。ここに来ていただくのは30分と決めてきていただくんで。それは興味関心のあるところに来ていただくと。次回その場で例えばそのたたき台を作れる状態であれば、出していただいてそのアンケートの議論をするという形でどうか。

北島委員

合計特殊出生率っていうのは、1人の女性が、どれだけの子供を産むかの出生率のランキングである。その中で、県とかが支援してる子供1人当たりの予算の順位が福井は1位の2万7500円。ちなみに2位が44番目にお金を出してる県。47都道府県の47位が全くお金を出してない。

三上委員長

予算出してないのに合計特殊出生率が高いよということですよ。

北島委員

だから結婚した方がいいよねっていう、お金ではないってことですね。

北浦副委員長

民間の会社の支援もあるのではないかな。

中垣内委員

全部田舎の方ですね。

北島委員

温暖なところが出生率が高いという要因の一つとして、考えられるのは、着るものが少なくて済むし、住宅もこの辺のように頑丈でなくてよい、そういったことでお金がかからない。

中垣内委員

農業の面からも福井は畑とかには向かなかつたり、冬は雪降るから準備できないから農業移住される方も結構ちょっととなる。暖かい地域だと過ごしやすい。

南委員

ここにのっているところは教育が良いところ。

合計特殊出生率ランキングの資料を元に議論。

三上委員長

今後の進め方については、南委員からお話いただいたんで、そのような形でまずは行政ヒアリングでその後しっかりと議論の集約+視察について考えていくことにします。それに加えて、さらに今後どうしようかなっていうので2点ありまして、1点目は市民の皆さんとの、要はこの議論ってあんまりその議員だけで閉じなくてもいいん

じゃないかなと個人的には思ってまして。なので市民の皆さんとも議論をしたりとか、例えば興味のある方にモニターで参加していただくとか。こういうような講座を作って、そこで話す機会をワークショップ的に作るとか、何かそういうような取り組みで、要はその市民の皆さんと一緒に作っていくというようなことも必要になってくるんじゃないかなと思う。

関山委員 それだったら、その代表として区長かなと思っている。

三上委員長 今ここでちょっと意見を伺いたいんですけどそうだよなと思っていただけるのであれば少しそのアイデアを練るといふか、どのような市民の皆さんと推進していくかについて少し案だけ出してみようかなと思っている。そもそも関山議員と中垣内議員が出してくれてるので、そこと話をしながら、こんな形で関わっていきましようかということ、次回お話させていただいてもいいですかね。

北島委員 前段からもずっと言ってるけど、ここには予算権限がない。だから要望事項は基本受けたらあかん。けど、市民は言いたいので話だけは聞きますということにしないとけない。

三上委員長 つまり、市民の皆さんとやっていくこと自体は別にいいけどちゃんと線を引くということですよ。聞くだけで後は事項としては捉えないっていうことを前段として、はっきりさせた上でやるということですね。承知しました。

野沢委員 5月にギカツでイベントをやるみたいなこと言ってたので、そこで何かそういうことをこう話すっていう、コーナーみたいなのを作ったりするのも面白いのかなとかも考えたりする。

三上委員長 それも一つの案だと思っている。それも含めて少し検討させていただく。今いただいたご意見をしっかり踏まえた上での検討をさせていただく。もう1点は今後のまとめていったりとか、プランを練ったりもしなきゃいけないくて、そこでこれはアイデアベースなんですけど、大学連携等を模索してもいいんじゃないかなと個人的には思っている。つまりアカデミズム的な調査をして、それを考察をした上でこういう形ですと分析をするというような部分で大学の手を借りることも少し考えてみるのもいいのではないかなと思っている。具体的にはそんな大した予算とかないので共同研究みたいな形にはなると思う。例えば近くですと福井大学とか、県立大学とかもありますけれども、もし興味を持っていただけるような研究室があるのであれば、そういうこともいいのかなと思っている。ちょっと探ってみてもいいですかっていうご相談である。

三上委員長 ほかになれば、終了する。